

しまってはいけない 記憶

— 国民義勇隊と 建物疎開 —



建物疎開が行われていた中島地区(手前) 米軍 撮影 米国国立公文書館 所蔵 広島平和記念資料館 提供



木原敏子 作 広島平和記念資料館 所蔵

昭和20年8月6日、広島市では市内及び周辺町村や職場から多数の国民義勇隊員が出動し、動員学徒たちと共に建物疎開の作業に参加していました。

8時15分、隊列を組み行進中の者、すでに作業に取り掛かっている者、指示を待つ間に一時の休憩をとっている者など様々な風景がありました。

原子爆弾がさく裂し、突然の出来事に戸惑いながら逃げ惑う隊員たち。急ぎ救援隊を送り出す地域や職場の混乱。じっと待つ家族や同僚の不安。そして、変わり果てた姿で帰ってきた隊員への必死の看護。

こうした様子を体験記を通じて紹介します。被爆の実相や被爆者及びその家族の悲しみ、苦しみ、そして、平和への強い思いを知ってください。



砂田房子 作 広島平和記念資料館 所蔵

国民義勇隊

昭和20年3月に国民義勇隊を組織することが閣議決定された後、食糧増産、建物疎開作業や補助的な軍事活動などにあたるものとして、地域や職域ごとに編成されました。

期間

平成22年4月1日(木)～12月28日(火)

4月～11月 8:30～18:00(8月は～19:00) / 12月 8:30～17:00

広島平和記念資料館の企画展は、7月から始まります。

会場

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー



川上喜蔵 作 広島平和記念資料館 所蔵

夕方、矢野の国民学校迄帰った時、学校の各教室は収容場となり、全身焼けた人やケガ人がいっぱいであつた。つける薬もなく、油もなく、私は自分の背中の皮を切りとってもらって、責任のため走りまわ〔っ〕て手配した。毎日、毎日、何十人と死んで行った。役目上私は、婦人会員に動員をかけて看病に配置した。

まさに人間の世の中〔と〕は思えぬ惨酷な状態だった。次々にトラックで運び込まれて来る。ヒバク者は全然、旅の人で知らぬまゝ名前も聞けず、家族へ連絡して上げようもなく死んで行った。

伊藤サカエさんの体験記より

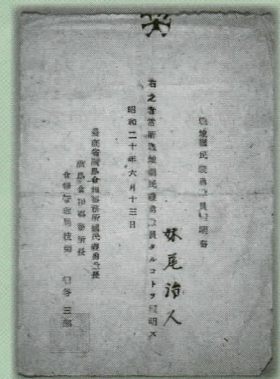
昭和二十年八月六日、私は雑魚場町(広島市役所裏)の建物疎開作業に職域義勇隊の一員として参加し、原子爆弾の洗礼を受けた。

当日は職場から十七名の者が雑魚場町の豊田という家に集合し、その付近の疎開作業をすることになっていた。まだ全員が揃わずその家の縁側で待機していた。

八時十五分、運命の原子爆弾第一号が投下された。原子爆弾のことを「ピカドン」とは良く言い表した言葉で、最初にピカッと写真のフラッシュをごく近距離で浴びたような猛烈な光線が走り、座っていた黒塗りの縁側の板がまっ白に見えたのを覚えている。そして二秒位して今度はドンと大きな爆発音と共に家屋が倒れた。

妹尾治人さんの体験記より

職域国民義勇隊員証明書



妹尾治人 寄贈
広島平和記念資料館 所蔵

【開館時間】

3月～11月……8:30～18:00 (8月は～19:00)
12月～ 2月……8:30～17:00

【休館日】 年末年始 (12月29日～1月1日)

【入館料】 無料

【交通案内】

JR広島駅(南口)から(約20分)

- ・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
- ・市内電車/紙屋町經由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車



【お問い合わせ先】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273

ホームページ

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者の氏名・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影をお寄せ下さい。皆様のご協力をお願いいたします。